

海外通信 from マラウイ No.2

今年1月に、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員として、アフリカのマラウイに派遣された小河原香織さん(市内野上出身)から、2通目のお便りが届きました。

小河原さんからメールが届いた 11 月初旬は、マラウイでは体にこたえる暑さが毎日続いているとありました。一年で最も暑い時期のようです。



別 れ 小河原 香織



今回は、私のボランティアの配属先の紹介から始 めようと思います。

私を含めて、3人が勤めているシャープバレTDC(教師研修センター)。その1人、PEA(初等教育アドバイザー)と呼ばれる方が、10年の任期を終えて今学期この勤務地を去りました。

私が彼に初めて会ったのは、この配属先にあいさつに来た時です。約束の時間に30分も遅れて着いた私を、笑顔で迎えてくれました。2回目に再び出向いた時、今度は遅刻をしないように速足で歩いている私の目の前に、先生2人が迎えに来てくれました。

彼との別れを私が残念に思っている理由は、目の前に座った相手の気持ちをほぐす温かい言葉選びと、物事における絶妙なタイミングの計り方にあります。私たちには、もちろん言葉の壁があります。しかし初めて私を職員に紹介してくれた後、「伝わる伝わらないにかかわらず、思ったことは口にしなさい」と同席した職員が席を外してから、そっと助言してくれました。

私はこの2年間、彼から色々学べるとわくわくしていました。シャープバレTDC内に掲げられている手書きの掲示物の分かり易さや、出張の多い彼が

久しぶりに事務所にいる時の来訪者の多さと、その 方々への対応の柔らかさを目の当たりにしていたか らです。

ここシャープバレには電気がありません。最近、メインロード周辺には電線が通ってきていますが、お金がなければ自分の家や学校に電気をひくことはできません。そんな情報源が限られる地域で、どういう風に彼は学んできたのでしょうか。

それを彼は「経験がなせる技だ」と質問した私に 言い切りました。その答えを聞いた時、正直かすか な疑いがありました。しかし彼と過ごすにつれて、 よく相手の話を聞く以前に、よく人を見ていること が分かりました。この地に来た私のような外国人で も誰に対してもです。最初の疑いは、いつの間にか 信頼に変わっていました。

TDC内の掲示物には、赤い色が目立ち、太陽のように温かい彼を連想してしまいます。私たちは、それぞれ違います。共にした時間、私は自分の気持ちを口にする努力をし続けただろうか、と自問しています。今日、皆さんは誰と気持ちのやり取りをしましたか。

私たちの事務所に、また新たなPEAが来ます。